

新たなまちの拠点として 「行政」「交流」「防災」「商工・金融」「医療」の機能を集約、複合化



新庁舎の概要をお知らせします

■施設整備にあたっての5つの視点

- ①行政機能と交流機能の複合化により町民や来訪者が「利用しやすく親しまれる」庁舎
- ②立地特性を生かし中心市街地の「まち場再生を先導する」庁舎
- ③諸室の共有化やスペースを機能的に活用することで「効率的な行政活動が行える」庁舎
- ④町民の生命と財産を守るべく消防と病院が連携した活動ができる「防災拠点となる」庁舎
- ⑤クリーンエネルギーのまちとして自然豊かな地域特性を生かした「環境にやさしい」庁舎

■新庁舎の概要

- ▶所在地 下町（旧病院・老人ホーム跡地付近）
- ▶建物構成 庁舎棟、分署棟、車庫棟
- ▶構造・規模 鉄筋コンクリート造、地下1階、一部5階建て
- ▶総延床面積 約9,000㎡
- ▶各階の構成（庁舎棟）
 - 【地下1階】多目的ホール、音楽室など
 - 【1階】金融機関、多目的ホール（吹き抜け部分）、住民会計課、健康福祉課など
 - 【2階】商工会、子育てサロン、調理実習室、図書室、教育委員会事務局など

- 【3階】農林環境エネルギー課、建設水道課、農業委員会事務局、各種会議室など
- 【4階】町長室、副町長室、総務企画課、政策秘書課、災害対策室など
- 【5階】議場、議長室、議員控室、議会事務局など

■新庁舎の主な特徴

- ▶拠点としての象徴「大屋根付きのエントランス広場」
町産材をふんだんに使用した大屋根は、新庁舎の玄関としてはもちろんのこと、各種イベント・行事などの催事場としてのほか、有事の際には吹き出しやさまざまな防災活動の拠点としても活用を想定しています。
- ▶町民活動の用途に応じて変化する「移動観覧席付きの多目的ホール」
最大312席の観覧席を確保し、講演会や発表会などでの利用のほか、観覧席を収納することでさまざまな交流・展示・イベントスペースとしても活用します。
- ▶読み聞かせや学習スペースを備えた「図書・サロン」
子どもたちの健やかな成長と学習環境をサポートするため、図書スペースの拡張と機能の充実を図ります。

3つのデザインコンセプト

- 【地域性】
山並みや周辺環境に調和し「葛巻らしさ」をちりばめた外観
- 【堅固性】
安全性と信頼性、品格・風格を兼ね備えた丈夫な建物
- 【快適性】
来庁者、就労者が快適に過ごすことができる建物環境の構築

新たな「まちの拠点」として計画を進めている新庁舎の整備について、概要がまとまりましたので、お知らせします。

平成30年6月に「葛巻町新庁舎基本計画」を策定し、新たな町民サービスの総合的な拠点として「行政」「交流」「防災」「商工・金融」「医療」の機能を集約・複合化することで、利便性を向上するほか、来訪者の回遊性の拡大を図ることで、周辺への波及効果を高めるなど、まちのにぎわいを創出していきます。

年内には工事に着手し、庁舎棟は令和2年度内の完成を目指して進めていきます。



完成イメージ（南側）